

* * *

学 会 記 事

* * *

§ 平成 21 年第 3 回日本核医学会理事会
議事録

日 時：平成 21 年 8 月 3 日（月）

12 時 00 分～17 時 00 分

場 所：日本アイソトープ協会 第 3 会議室

出席者：

理事長：遠藤啓吾

理事：玉木長良，小須田茂，米倉義晴，
中條政敬，日下部きよ子，福田 寛，
山崎純一，絹谷清剛，松田博史，
望月輝一，桑原康雄，伊藤健吾，
菅野 巍，畠澤 順，汲田伸一郎，
竹田 寛，中村佳代子

監 事：久保敦司，小泉 潔

今期会長：油野民雄

次期会長：本田憲業

幹事長：織内 昇

事務局：神田正子

欠席者：

理事：荒野 泰

（敬称略，順不同）

議題

I. 審議事項

1. 平成 21 年度理事選挙結果報告

（1）（久保敦司監事）

資料に基づいて開票結果が報告された。外科系および理工学系から各々 1 名を含む 10 名の新理事が選出され、信任投票の結果 10 名の現理事全員が信任されたことが報告された。

2. 第 52 回学術総会会長（2）（遠藤啓吾理事長）
監事から評議員のアンケート結果が報告さ

れ、第 52 回学術総会会長に玉木長良理事が推薦された。投票の結果玉木長良理事に決定した。

3. 定款・細則変更（3）（遠藤啓吾理事長）
日本核医学会定款並びに細則の変更について、理事評議員制度（案）をもとに、審議が行われた。理事の任期については、定款第 21 条を「理事の任期は 2 年として再任を妨げない」とする。「ただし連続して 3 期以上再任することはできない」を削除することとした。

細則第 21 条理事の選出については、「前項の規定にかかわらず、任期 2 年が終了する理事に対する信任投票を行い、有権者の 4 分の 3 以上の不信任票が無い限り、社員総会において選出し、さらに 1 期 2 年の任期を務める」の項は削除することとし、評議員の中から選出評議員の「6 名連記無記名」の投票とすることとした。細則第 20 条の「理事の被選挙権は 63 歳未満とする」はそのままとすることとした。

また評議員選挙については、定款第 25 条の推薦評議員の選任については、「20 名以内」を「25 名以内」とし、細則第 29 条の選出評議員の選出については、被選挙権者名簿からの選出人數をこれまでの 40 名以内から 20 名以内にすること、被選挙権の年齢制限を 65 歳未満とすることとした。

以上の定款の変更について社員総会に諮ることとなった。

4. 学会賞・研究奨励賞（4）（菅野 巍理事）
第 48 回日本核医学会賞ならびに第 6 回日本核医学会研究奨励賞の選考審査結果が報告された。審議の結果、核医学会賞には近畿大学の細野 真氏を、研究奨励賞には福井大の辻川哲也

氏，放医研の高橋英彦氏，放医研の志田原美保氏の3名に決定した。

5. 久田賞 (5)(松田博史理事)
編集委員会において2008年に刊行されたANM 23号，核医学46号に掲載された論文から選出した優秀論文について審議を行い，金賞に大阪大学の磯橋佳也子氏，銀賞に金沢大学の中嶋憲一氏，銅賞に浜松PETセンターの西澤貞彦氏が選出された。本年度の総会でパネル展示を行うとともに，表彰式を行い久田欣一先生から渡していただく予定であることが報告された。

6. 平成21年度ワーキンググループ (6)(畠澤順理事)

資料に基づいて5課題について審議の結果，いずれも承認され，新規の2課題も採択された。若手の会員からの応募が増えることを望む意見が出された。

7. 名誉会員，功労会員の推薦 (7)(小須田茂理事)

資料に基づいて名誉会員・功労会員が推薦され，審議の結果，名誉会員4名と功労会員5名が承認された。

8. PET研修セミナー (13)(伊藤健吾理事)
第4回PET核医学委員会について報告され，PET研修セミナー終了証の発行ならびに追加認定について審議された。追加認定については，レポート提出による追加認定を行わないこと，著しく正答率の低い設問を採点対象外として19名を追加認定することが承認された。

9. その他

1) 國際原子力機構(IAEA)の「核医学技師のための遠隔トレーニングプログラム」 (8)

IAEAからの協力要請に基づき，標記の活動を支援する旨の文書案が提示され，この文書を出すことが承認された。

2) 小冊子「がん医療を専門とする医師を目指す方」に関するアンケート (9)

がん集学的治療研究財団からの「がん医療を専門とする医師を目指す方へ」と当該冊子

への掲載について本学会宛に送られたアンケートが資料として示され，アンケートに対応することとした。

II. 報告事項

1. 第49回学術総会準備状況報告

(10)(油野民雄会長)

日程表に基づいて総会日程が紹介された。この中で技術学会のプログラムは要望を踏まえて金，土曜を中心に作成したこと，一般演題は所期の応募があったこと，展示発表は行わないこと，最終日の午後に呼吸器核医学研究会と日本脳神経核医学学会を開催することなどが報告された。

2. 第50回学術総会準備状況報告

(本田憲業次期会長)

平成22年11月11～13日に開催される第50回学術総会について資料が提示され準備状況が報告された。集会の標語とホームページならびにプログラム委員が決定し，第1回のプログラム委員会を本年の総会中に，第2回を12月に行い最終決定する予定である。またプログラムの概略について説明された。

3. 第51回学術総会準備状況報告

(小須田茂次々期会長)

平成23年10月28～30日につくば国際会議場で開催する第51回学術総会についてプログラムの概略が紹介された。メインテーマは「核医学による懸け橋 分子イメージング・内照射療法への新展開」とし，教育コースの充実にも力点を置くこととした。

4. 第10回春季大会準備状況報告

(遠藤啓吾理事長)

平成22年5月8,9日に開催される第10回春季大会について，指導者コースの受講者の増加が予想されるため会場のやりくりが問題となる見込であることが報告された。

5. 会計報告 (11)(中條政敬理事)

平成20年9月から21年8月まで月次損益計算書に基づいて会計報告が行われた。

昨年の総会の米倉会長と久田先生からの寄付について報告された。

6. 委員会報告

1) 編集委員会 (5)(松田博史理事)

インパクトファクターが1.099と上昇したこと、採否決定までが短期間であること、海外からの投稿が多国に及び57%と多いことなどが報告された。また請求金の振込の督促について、出版倫理、Google Book 検索訴訟については「和解」に参加すること、第2回日本医学雑誌編集者会議総会・第2回シンポジウムについても資料に基づき報告された。

2) 教育・専門医審査委員会

(12)(福田 寛理事)

核医学専門医と基本領域の専門医との関連で、日本専門医認定機構から厚労省に提出された文書について、資料が提示され議論された。同機構から出されている専門医制度の基本設計に関するあり方委員会からの提言(案)が資料として提示された。二段階の専門医制度のなかで対応が迫られていることが提議された。

専門医研修病院における指導体制がスタートするため、春季大会の専門医教育セミナー受講者が増加する見通しであること、専門医制度整備指針の改定に関する第2回評議委員会について等が資料をもとに報告された。

3) PET 核医学委員会 (13)(伊藤健吾理事)

PET 合同アンケートについては、変更点や調査期間等について報告された。高度医療評価制度について、メチオニンが認定されなかつたことに関しては、本学会など4者で詳細を再確認することとなった。

放射性薬剤を用いる臨床研究を推進する立場から、薬剤の臨床評価基準、安全性基準、製造基準を段階的に確立し、成熟薬剤として臨床研究に結び付けるため、担当者が協議していくこととなった。このことに

ついては次回の理事会でも報告するよう求められた。

4) 健保委員会 (14)(日下部きよ子理事)

内用療法について、患者や介護者への生活指導など安全管理を徹底して公衆の被ばくを減らし、外来での使用を増やすために、データを出して学会としてガイドラインを作成するなどの方策を考えていること、その際には講習会が必要との観点から検討を行っていることが報告された。

来年の診療報酬改定に向けて、FDG-PET の紹介率について、内用療法管理料について、入院病室代についてなど、要望事項が報告された。

内保連代表から厚労省に提案された検討項目の中に、内用療法の入院管理料がとりあげられたこと、センチネルリンパ節シンチグラフィが乳がんに対して認可される見通しであること、¹²³I-MIBG が神経芽細胞腫に対して、^{99m}Tc-MIBI が副甲状腺シンチグラフィとして承認される見通しであることなどが報告された。

5) 広報委員会 (中村佳代子理事)

ホームページでモリブデンの供給に関して通知を行っていることなどが報告された。

6) リスクマネージメント委員会

(畠澤 順理事)

特記すべき報告事項なし。

7) 放射線防護委員会 (15)(米倉義晴理事)

防護委員会議事録が資料として提示され、そのなかでボランティアの被ばく管理について説明があった。核医学会への提案として、本学会が日本アイソトープ協会と合同で検討していくことが提案された。担当の委員会として、それぞれ「放射線防護委員会」と「医学・薬学部会放射線管理専門委員会」が挙げられた。討議の結果、患者の医療被曝については放医研が中心となって行うことが望ましいとされた。

治療用の高 LET 核種などに対応する生物学的効果の評価法が必要とされていることについて、新しい単位として Barendsen (Bd) を提案している論文とともに提示された。このことは CJK カンファレンスで議題となる可能性が報告された。

8) 倫理検討委員会 (16)(竹田 寛理事)

日本核医学会における臨床研究の利益相反管理に関する指針が示された。このなかで学会機関誌に発表する者も対象者に含め、海外の投稿者を考慮して英文を作ることとした。編集委員長が倫理検討委員会に入ることについては検討することとした。開示すべき項目の中で自己申告が必要な金額等についても資料をもとに説明された。本年の学術総会後の 10 月 4 日から施行し、必要により改定を行う。

9) 学会賞選考委員会 (菅野 巖理事)

審議事項 4 に既述。

10) 放射性医薬品臨床評価ガイドライン作成委員会 (荒野 泰理事)

特記すべき報告事項なし。

11) 核医学認定薬剤師に関する検討委員会 (荒野 泰理事)

特記すべき報告事項なし。

12) 将来計画委員会 (池田伸一郎理事)

核医学専門医の増加と PET 認定医の更新について報告があった。

13) 選挙管理委員会 (遠藤啓吾理事長)

審議事項 1 に既述。

7. ワーキンググループ

審議事項 6 に既述。

8. 分科会活動

1) 腫瘍・免疫核医学研究会

(17)(絹谷清剛理事)

伊藤健吾理事が会長として名古屋市で開催される第 46 回研究会についての案内があった。

2) 日本脳神経核医学研究会(伊藤健吾理事)

中川原譲二会長のもと総会の最終日 11 月

3 日の午後に研究会が行われる。EBM のガイドラインが完成し会誌に掲載されることが報告された。

3) 日本心臓核医学会 (山崎純一理事)

日本心臓核医学会が汲田伸一郎理事を会長として 6 月 26, 27 日に品川コンベンションホールで開催されたことが報告された。11 月 7 日に東京で開催される 2009 年度日本心臓核医学会市域別教育研修会 関東地域についても案内があった。

4) 呼吸器核医学研究会 (竹田 寛理事)

呼吸器核医学研究会は総会の最終日 11 月 3 日の午後に行なうことが報告された。

5) PET 核医学分科会 (13)(伊藤健吾理事)

PET サマーセミナー 2009 について大会長の汲田伸一郎理事から報告があった。

9. 国外学会等連携担当理事(中村佳代子理事)

1) 世界核医学会

第 10 回世界核医学会が 2010 年 9 月 18 ~ 22 日を会期としてケープタウンで開催されることが報告された。

2) 米国核医学会

本年の米国核医学会のシンポジウムについて報告があった。日本核医学会のブースについての言及があった。

3) アジアオセニア核医学会

(ARCCNM 兼務)

インドネシアで開催され出席についての依頼があった。

4) 日韓中核医学会

青島で開催され演題の応募が要請された。

10. その他

1) 日本がん治療認定機構

(18)(小泉 潔監事)

本年の第 1 回関連学会連絡委員会に連絡委員として出席したことが報告された。

2) ⁹⁹Mo 国産化検討分科会

(19)(小須田 茂理事)

モリブデンの国産化について検討状況が

報告された。本年末まで供給が不足するため、オーストラリアの原子炉からの購入を本学会として交渉する。

テクネチウムの使用動向について調査し、本年6月の使用量を前年同月と比較することとした。

III. 確認事項

- 前回議事録(案) (20)
前回議事録を確認した。

理事会日程

第4回理事会 9月30日(水)14:00~19:00
旭川(第49回学術総会)

§ 平成21年第4回日本核医学会理事会 議事録

日 時：平成21年9月30日(水)
14時00分~18時00分
場 所：旭川グランドホテル 白鳥の間

出席者：

理事長：遠藤啓吾
理事：玉木長良、小須田茂、米倉義晴、
中條政敬、日下部きよ子、福田 寛、
絹谷清剛、松田博史、望月輝一、
桑原康雄、伊藤健吾、菅野 巍、
畠澤 順、汲田伸一郎、
中村佳代子、荒野 泰

監事：久保敦司、小泉 潔

今期会長：油野民雄

次期会長：本田憲業

幹事長：織内 昇

事務局：神田正子

欠席者：

理事：竹田 寛、山崎純一
(敬称略、順不同)

議題

I. 審議事項

- 平成21年度監事選挙結果報告
(1)(久保敦司監事)
9月15日に行われた監事選挙の開票結果が報告され、社員総会に諮ることになった。
- 定款・細則変更
(2)(遠藤啓吾理事長)
日本核医学会定款並びに細則の変更の要点について対照表をもとに説明があり、社員総会に諮る定款(案)が示された。
- 平成21年度事業計画 (3)(玉木長良理事)
平成20年度の事業報告ならびに平成21年度の事業計画について説明があり、それらを含む「第1回一般社団法人日本核医学会社員総会」が資料として示された。

4. 平成 21 年度収支予算案

(4)(中條政敬理事)

平成 21 年度の収支予算案について説明された。

平成 20 年度の収支報告について損益計算書に基づき説明された。中間法人から一般社団法人への移行による税務上の注意点について解説がなされた。

5. 日本核医学会における臨床研究の利益相反管理指針 (5)(小須田 茂理事)

本学会の利益相反管理に関する指針が説明され実施していくこととなった。申告の対象者には非会員であっても学会誌の投稿者が含まれることや、企業からの寄付金などに関して実態に即して必要な事項を様式にも明示することになった。

II. 報告事項

1. 第 49 回学術総会状況報告 (油野民雄会長)
第 49 回学術総会の状況について報告があった。

2. 第 50 回学術総会準備状況報告

(6)(本田憲業次期会長)

「核医学が照らす医療の未来 創薬から治療まで」を標語として 2010 年 11 月 13 日(木)から 15 日(土)にさいたま市大宮区で行われることが報告された。ポスターが提示され、資料に基づき準備状況が説明された。

また第 50 回を機会に学会としての標語を作成することが提案された。提示された標語案をもとに学会の HP で選考することになった。

3. 第 51 回学術総会準備状況報告

(7)(小須田 茂次々期会長)

第 51 回学術総会は 2011 年 10 月 28 日(金)から 30 日(日)を会期として、つくば国際会議場で開催することが報告された。第 31 回日本核医学技術学会と共に開催することに加えて、第 5 回中韓核医学会(CJK2011)とも共催することが提案された。CJK2011 の共催については単独開催よりも参加者の便宜にかなう点などが

利点として挙げられ承認された。準備状況として、会長要請講演や特別講演が内定したこと、防衛医科大学校としての特殊性から核テロに関する合同シンポジウムを予定していることや教育を重視することについて説明があった。

4. 第 52 回学術総会準備状況報告

(玉木長良次々期会長)

2012 年 10 月 11 日(木)から 13 日(土)にロイトン札幌で行なったことが報告された。

5. 第 1 回社員総会(評議員会)の議事進行

(8)(遠藤啓吾理事長)

資料に基づき総会の議題と進行について説明があり、あわせて委任状について報告があった。

6. 平成 20 年度事業報告

(3)(小須田 茂理事)

社員総会資料に基づき平成 20 年度事業報告があった。この中でアジア研究奨励賞のうち JALILIAN 氏は自己都合により辞退したことが報告された。

7. 平成 21 年度収支決算報告

(4)(中條政敬理事)

資料に基づき説明があった。

8. 理事長の引き継ぎ事項

(9)(遠藤啓吾理事長)

資料に基づき理事長在任中の実績と現状ならびに将来に向けての問題点と要望が述べられた。なかでも学会の財政、若手会員の増加の必要性や協賛企業等については、重要性が指摘された。

9. 庶務の引き継ぎ事項

(10)(小須田 茂理事)

資料に基づき引き継ぎ事項が説明された。

10. 監事の引き継ぎ事項 (24)(小泉 潔監事)
資料に基づき引き継ぎ事項が説明された。

11. 委員会報告

1) 編集委員会 (11)(松田博史理事)

利益相反管理については指針の英文を ANM 誌に掲載し、学会機関誌で発表する著者も対象であることを明記することになった。

投稿数が増加し投稿者の国籍も多岐にわたること、ANM誌の論文のダウンロード数が月間で3,000件を超えたことが報告された。

久田賞の選考に関して海外の査読者が掲載論文をネットで見られるようにした。

投稿論文の査読については、海外を含め240人の査読者を擁しているが、一部の査読者に集中するのを避けると査読の質の低下が避けられない現状が指摘された。その他、資料に基づき説明があった。

2) 教育・専門医審査委員会

(12)(福田 寛理事)

専門医教育病院の指導責任者および指導担当医の要件を満たすために、来年度の春季大会で受講者の増加が予想されるため、収容可能となる会場の問題が議論された。

専門医試験については領域選択や口頭試問についての問題点や多領域に横断的に関連する学会専門医としての制度設計についての問題が提起された。

そのほか資料に基づいて申し送り事項が説明された。

3) PET核医学委員会 (13)(伊藤健吾理事)

資料に基づいて申し送り事項が説明された。その中でPET研修セミナーは再受講者が本格的に増加することを受けて、プログラムの見直しを行ったこと、認定医更新のための講義をPETサマーセミナーで開催できるかどうかを検討する必要性があることが報告された。試験については合格ラインや正答率が低い問題の扱いについての検討が必要であることが指摘された。アイソトープ協会との合同委員会から、先進医療制度への対応として、FDG-PETが小児悪性腫瘍の診断で第2項先進医療に承認されたため、対応が必要との見解が示された。

またPET核医学分科会との連携を図り、効率的に運営していくことが報告された。

PET関連の臨床研究を推進するために

は、ガイドラインの整備など今後膨大な作業が必要なため、WG設置の可能性が指摘されたが、このことについて研究から臨床への道筋を確固たるものにするためには多方面からの問題解決が必要であることが米倉理事から指摘された。

4) 健保委員会 (14)(日下部きよ子理事)

先ごろ提出された「医療上の必要性が高い未承認の医薬品又は適応の開発の要望」について資料に基づき説明があった。診療報酬改定や効能拡大に向けての取り組みについて高度医療との関連も指摘された。また引き継ぎ事項とともにDPCや新規の薬事承認について報告された。

5) 広報委員会 (15)(中村佳代子理事)

HPのコンテンツを整理してHPを充実させる一方で、会員を主体としたフォーラムの立ち上げは慎重に考慮すべきであることが報告された。一般からのアクセスが増えており、特に新しい内照射療法については対応を準備する必要があることや、核医学会のパンフレットならびに案内書の掲載依頼については、転載・引用するための学会指針が必要なことが、引き継ぎ事項として指摘された。

6) リスクマネージメント委員会

(16)(畠澤 順理事)

報告すべき医療事故はなかったことが報告された。

7) 放射線防護委員会 (17)(米倉義晴理事)

委員の引き継ぎについて報告された。臨床研究ボランティアの被ばく管理については作業中であること、医療被ばくに関する国際対応の議論が始まっており、放射線医学総合研究所が窓口となって情報収集中であるが、関連学会などを含めて連携体制を構築していく必要性のあることが指摘された。患者のスリッパの履き替えについては、法的には必要がないことが指摘された。

- 8) 倫理検討委員会 (18)(遠藤啓吾理事長)
倫理相反管理規定が2009年10月4日から施行されることが報告された。また利益相反委員会の設立とその委員の選定について申し送り事項が報告された。
- 9) 学会賞選考委員会 (19)(菅野 嶽理事)
学会賞についての引き継ぎ事項が報告された。研究奨励賞については最優秀賞の副賞の増額にあたって選考基準を公表する必要のあること、応募者数の増加策、分野の偏りへの対応ならびにアジア研究奨励賞受賞者へのビザ発給手続きについて議論の必要性が指摘された。
なお、アジア研究奨励賞受賞予定者のイランのAmir R Jalilian氏が個人的な都合で旭川の核医学会に出席できなくなったため受賞資格を喪失した。したがって今年度のアジア研究奨励賞は中国のChen Libo氏1名になった。
- 10) 放射性医薬品臨床評価ガイドライン作成委員会 (20)(荒野 泰理事)
資料に基づき説明があった。
- 11) 核医学認定薬剤師に関する検討委員会 (21)(荒野 泰理事)
資料に基づき説明があった。
- 12) 将来計画委員会 (汲田伸一郎理事)
専門医と会員の増加策については、専門医試験の専門分野の撤廃や核医学PET認定医の更新が影響することが指摘された。
- 13) 選挙管理委員会 (遠藤啓吾理事長)
理事長が兼務しないことについては、細則のため改正が必要となることが指摘された。
12. ワーキンググループ (畠澤 順理事)
4件のワーキンググループが活動中であることが報告された。
13. 分科会活動
1) 腫瘍・免疫核医学研究会 (絹谷清剛理事)
本年11月14日に愛知県産業会館で開催

されることが報告された。第47回以降の開催は未定であること、開催回数やニュースレターの発行についても検討中であることが報告された。

内照射療法でI-131を投与された患者の退出については、退出時の線量率を測定して計算式に当てはめたところ、30mCi投与後に混雑したバスで一緒に帰る家族は2.5mSv程度との結果が得られた。現在家族の被ばくのデータを集めていることが報告された。

- 2) 日本脳神経核医学研究会 (松田博史理事)
第49回総会の会期中10月3日を開催される第10回研究会の報告があった。
- 3) 日本心臓核医学会 (玉木長良理事)
本年の日本心臓核医学会は6月に品川で開催され、来年は汲田理事のもとで開催されることが報告された。
- 4) 呼吸器核医学研究会 (小須田 茂理事)
第21回は第49回総会の会期中10月2日を開催され、第22回は2010年4月24日に津市で開催されることが報告された。
- 5) PET核医学分科会 (伊藤健吾理事)
PETサマーセミナー2009について汲田会長から報告があった。次回は岡山で開催されることが報告された。
14. 国外学会等連携担当理事 (22)(中村佳代子理事)
1) 世界核医学会
資料に基づき引き継ぎ事項が報告された。
- 2) 米国核医学会
本学会が企画する生涯学習コースを2010年も開催することが決定し、企画を打診していることが報告された。その他、資料に基づき引き継ぎ事項が報告された。
- 3) アジアオセニア核医学会 (ARCCNM 兼務)
2012年5月にテヘランで開催されること

が報告された。

4) 日中韓核医学会

2011年の日中韓核医学会は、第51回の総会と共に開催されたことが報告された。韓国核医学会とは互いの総会で講演者を派遣交換することについても報告された。

15. その他

1) ^{99}Mo 国産化検討分科会

モリブデンの国産化について、Moの吸着剤としてPZC以外も検討中である。

2) 事務局スタッフ勤務体制

(小須田 茂理事)

勤務日数の増加について報告があった。

III. 確認事項

1. 前回議事録(案)

(23)

前回議事録を確認した。

§ 平成21年日本核医学会新理事会候補者会議事録

日 時：平成21年9月30日(水)

18時00分～18時30分

場 所：旭川グランドホテル 白鳥の間

出席者：

理事長(議長)：遠藤啓吾

監 事：小須田茂、阪原晴海

理事兼次期理事候補者：

荒野 泰、伊藤健吾、絹谷清剛、
汲田伸一郎、桑原康雄、玉木長良、
畠澤 順、望月輝一

次期理事候補者：

油野民雄、井上登美夫、尾川浩一、
小泉 潔、佐々木雅之、宍戸文男、
千田道雄、中川原譲二、本田憲業

書 記：織内 昇(旧幹事長)

事務局：神田正子事務局長

欠席者： 竹田 寛、山崎純一、西山佳宏

議題

I. 次期理事長候補者の選出

小須田茂監事ならびに阪原晴海監事によつて管理・開票が行われた結果、次期理事長には玉木長良理事が選出された。

§ 第1回一般社団法人日本核医学会
社員総会 議事録

日 時：平成 21 年 10 月 2 日 (金)
17 時 00 分～18 時 00 分
場 所：旭川市 旭川グランドホテル
3 階第 5 会場 彩雲の間

議 事

評議員定員 178 名 (成立出席者数 89 名, 定款変更承認のための必要数は 119 名以上), 当日出席者 74 名, 委任状 84 名, 総計 出席総数 158 名との報告が事務局よりあり, 評議員会が成立したことを遠藤啓吾理事長が確認・報告した後, 遠藤啓吾理事長を議長として議事に入った。

- 物故会員 (阿部由直様, 小野 慶様, 片山通夫様, 川合宏彰様, 國安芳夫様, 隅 寛二様, 西村克之様, 渡辺文雄様) 8 名に黙祷が捧げられた。
- 第 49 回日本核医学会学術総会
油野民雄会長より, 総会概要の報告がなされた。
- 第 50 回日本核医学会学術総会
本田憲業会長より, 総会準備状況の報告がなされた。
平成 22 年 11 月 11, 12, 13 日に大宮ソニックスシティで行う旨の報告がなされた。日本核医学技術学会総会学術大会との合同開催の形態を継続する。
- 小須田茂庶務担当理事より, 日本核医学会定款変更内容について説明があり, 変更は承認された。
- 小須田茂庶務担当理事より, 平成 21 年度事業報告, 定款細則変更内容についての説明が行われ承認された。

- 小須田茂庶務担当理事より, 役員選挙についての説明が行われ, 平成 21 年度新役員が承認された。
- 中條政敬会計担当理事より, 平成 21 年度損益決算報告, 小泉潔監事より, 監査報告が行われ承認された。さらに中條政敬会計担当理事より, 剰余金処分案が提案され承認された。
- 玉木長良庶務担当理事より, 平成 21 年度事業計画案が提案され承認された。
- 中條政敬会計担当理事より, 平成 21 年度収支予算案が提案され承認された。
- 玉木長良庶務担当理事より, 名誉会員として今枝孟義先生, 小西淳二先生, 利波紀久先生, 吉田祥二先生の 4 名, 功労会員として小林毅先生, 森田誠一郎先生の 2 名の推薦があり承認された。
- 遠藤啓吾議長が, 出席者からその他の意見や要望などを求めた。
平成 22 年度から実施される「専門医教育病院の研修指導体制」についての質問があり, 福田寛教育担当委員長より回答がなされた。
- 遠藤啓吾理事長より, 任意団体日本核医学会について平成 20 年度において特別な活動がなかった旨の報告があった。
- 遠藤啓吾議長より, 閉会宣言がなされた。